

## 2008年(平成20年)度 第3回理事会記録

日時：2008年(平成20年)12月20日(土)14:00~16:05

場所：八重洲倶楽部 第11会議室

参加者：柴田洋三郎（理事長）、牛木辰男、岡部繁男、藤本豊士（以上、常務理事）、石村和敬、井関尚一、伊藤恒敏、大野伸一、木山博資、坂井建雄、塩田浩平、仙波恵美子、竹内義喜、辰巳治之（以上、理事）、山田仁三、渡辺雅彦（以上、監事）、依藤 宏（常任幹事）、天野恵子（口腔保健協会）

欠席者：井出吉信、澤田 元、菅沼龍夫（以上、理事）

### I. 議事録署名人の選任

議事録署名人として辰巳治之、伊藤恒敏両理事を推薦する旨の提案がなされ、承認された。

### II. 会議記録の確認

(1) 2008(平成20)年度第1回理事会記録、同摘録、同議事録（案）

(2) 2008(平成20)年度総会記録、同摘録、同議事録（案）

(3) 2008(平成20)年度第2回理事会記録、同摘録、同議事録（案）

### III. 報告事項

#### 1. 庶務報告（岡部庶務担当理事）

(1) 教授就任による学術評議員の承認

5件の申請について報告がおこなわれた。

(2) メールによる2008年度第2回理事会（持ち回り）および書面表決による総会結果報告

近畿支部理事補充選挙の結果を受けて、平成20年5月22日~28日にメール会議の形式でおこなわれた理事会で、理事16名中14名の賛成により、木山教授の理事就任が承認されたことが報告された。また、この理事会結果を受けて書面表決による総会が実施され、有権者総数1976、回収1024（投票率52%）で、第1号議案（議長選任）賛成1024、反対0、第2号議案（議事録署名人選出）賛成1023、反対1、第3号議案（近畿支部理事選任）賛成1023、反対1で、すべての議案について提案が承認されたことが報告された。

(3) ホルマリン規制について

厚労省労働基準局安全衛生部長より、解剖学会理事長宛に届いた「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び特定化学物質障害予防規則等の一部を改正する省令の施行に係わる留意点について」をもとに解剖準備室、実習室におけるホ

ルマリン対策についての考え方の説明と質疑がおこなわれた。要点は1)作業環境測定：解剖準備室については法令に基づき定期的に測定をおこない、その結果に基づいて作業環境の改善を進めること。解剖実習室についてはホルムアルデヒドの発生が多いと考えられる解剖の開始時等に定期的に測定をおこない、測定結果に基づいて作業環境改善を行うことが望ましい。2)作業主任者：作業主任者にホルムアルデヒドによる汚染、吸入を防ぐ作業方法を決定させるとともに、保護具の使用状況を監視させる等が重要。3)発散抑制措置：準備室、実習室については、局所排気装置等の設置による曝露防止対策の実施が基本だが、局所排気装置等の設置が著しく困難な場合があること、その場合は全体換気装置の設置などの健康障害防止に必要な措置を講じなければならない等であり、質疑において、解剖実習室では0.1ppmは努力目標で、段階的にそれに近づけて行く努力をおこなうべき値であるとの見解が示された。

(4) 基礎医学教育・研究の危機に関するアンケート結果

基礎医学教育・研究の危機については99%の回答者が感じているなど、アンケート結果の概要に関する説明と、結果を何らかの形で解剖誌にアナウンスし、解剖学会のHPで見られるようにすることが報告された。

(5) 人体の不思議展

9月にメールを通して理事会メンバーには通知し、一般会員には支部長を通して周知した「人体の不思議展」に関する常務理事会見解(①「人体の不思議展」については日本解剖学会として協賛・後援などを行ったことはない。②「人体の不思議展」については学術的・教育的な展示であるとは認識していない。③主催団体についても解剖学・形態学に関連した学術的な活動を行っている団体とは考えられない。)の確認とそれに関連する事実経過について説明があった。

(6) 名簿について

名簿掲載事項のアンケート回収状況の報告と今後の対応について説明があった。

(7) 2009・2010年度(平成21・22年度)役員選挙

標記選挙の実施について報告があった。

(8) その他

全国の国立大学附置研究所の見直しに伴い、解剖学会から「共同利用・共同研究拠点」への移行に関する要望書を出して欲しいとの依頼文書が2箇所の研究所から届いている。これに対し、常務理事会としては要望書を出す予定であることが報告された。

2. 編集報告(藤本編集担当理事)

(1) 科研費申請に係わるASI入札経緯と出版社の移管について

科研費の申請に必要なASIの刊行業務に関する競争入札の経緯と、その結果、すなわち従来のワイリー・ブラックウェル社にかわり、シュプリンガー・ジャパン

社が落札したこと、およびその2社間の移管にともなう手続きについて報告と説明があった。

(2) ASI インパクトファクターについて

ASIにトムソン社が発表しているインパクトファクターが初めてつき、2007年は1.161であることが報告された。

(3) その他

和文誌のうち2回をニュースレターにすることを検討したが、かえって作業が煩雑になるので、ページ数を減らすことで対応したいとの報告があった。

3. 企画・渉外報告（岡部企画・渉外担当兼任理事）

(1) 平成20年度奨励賞・解剖組織技術士功労賞候補者について

奨励賞選考委員会による選考結果が報告され、応募者4名のうち3名が授与対象者とされた。1名の授与対象者とならなかった者は審査委員会で規程の年齢以上であることから審査対象としなかったとのことである。この応募者については学士編入のため、研究の開始が遅くなったことを考慮して欲しいとの推薦者からの要望書が付されており、この点については審査委員会で検討し、理事会に報告、理事会ではそれをもとに審議するとされた。（この項は牛木理事よりの報告） また、技術士功労賞については12月末日が応募の締め切りであるが、12月19日現在で応募者は1名であることが報告された。

(2) 2009(平成21)年度総会・全国学術集会準備状況報告

準備状況について滞りなく進んでいる旨の報告があった。

(3) 2012(平成24)年度総会・全国学術集会開催校について

3校より開催の希望が寄せられたが、前々年、前年が東北、関東と続くので地域性を考慮し、山梨大学を推薦する旨の提案があり、承認された。

(4) IFAA Congress 2009 について

2009年8月16-19日に南ア共和国ケープタウンにおいておこなわれる標記会議について、通知がようやく届いた。IFAAについては個人レベルの交流にとどめ、学会としては距離をおいて見守る姿勢であることが報告された。なお、この件に関し出席理事の中から、学会場付近も含めて治安はかなりわるく、参加の会員は十分に気を付けるべきであるとのコメントがあった。

(5) 米国解剖学会（AAA）との関係について（この項は柴田理事長よりの報告）

AAAに対しては、従来日米合同シンポジウムという形で交流をおこなってきたが、今後はAAAもAPICAに参加し、それを通しての交流に変えてはどうかという提案をおこなっていた。これに対してAAAのBurr会長より承諾の返事があり、今後はAPICAを介して相互の友好関係を維持していくことになった。

(6) 一級解剖技術士審査結果

3名4科目（解剖のみ2名、解剖・組織1名）の申請に対して全員全科目につい

て合格となったことが報告された。なお、この試験に関する年森資格審査委員長よりの提言が紹介された。

#### 4. 会計報告（牛木会計担理事）

##### （1）支部学術集会決算

近畿支部を除く5支部の学術集会の収支決算について報告があった。

##### （2）2008(平成20)年度総会・全国学術集会収支決算

藤倉義久会頭より提出の収支報告書をもとに報告がおこなわれた。

##### （3）平成20年度中間決算書

10月次の収支決算書が提示され、報告と説明がおこなわれた。

### IV. 審議事項

#### 1. 永年会員の推薦

候補者一覧が提示され、今後個別に推薦を受けるかどうかを調査した後に最終的な推薦リストを作成することが承認された。

#### 2. 公益法人制度改革に対する方針

公益法人制度改革に対処するためのワーキンググループの検討内容とその結論（解剖学会は公益法人とはならず、非営利型の一般法人となることを選択する）が報告され、審議の結果承認された。

#### 3. 次年度以降の解剖学雑誌について

現在の発行形態と年間予算、今後の発行形態、年間発行計画を記した編集委員会案をもとに説明がおこなわれ、審議の結果承認された。

#### 4. 次期ASI編集委員会委員長

現在の山科正平委員長は平成21年3月で3期6年を迎えるので、規約上退任することになった。新委員長には出版社の移行作業などもあるので、常務理事会にて検討し、現在の monitoring editor である年森清隆千葉大学教授に次期委員長予定者として参画して頂いている。このことを踏まえて次期理事会にて正式決定して頂きたい旨の提案があり、承認された。

#### 5. 事務委託契約

平成21年1月1日より1年間の学会事務代行を口腔保健協会に委託する旨の契約書および同じく「解剖学雑誌」販売の業務を口腔保健協会に委託する旨の契約書が提示され、承認された。

#### 6. 平成21年度事業計画（案）

標記（案）が提示され、承認された。

#### 7. 平成21年度仮予算書（案）

3月の総会で承認されるまでの仮予算書（案）が提出、説明がおこなわれ、審議の結果承認された。

8. その他

出席の理事より（1）医学部の定員増にともなう解剖実習についての対応と基本的考え方についての質問、（2）新鮮遺体の解剖に関する現況報告があった。

上記の2008年度（平成20年度）第3回理事会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。

2009年（平成21年） 月 日

社団法人 日本解剖学会

議長

署名人

署名人